

科目名	ネットワークセキュリティⅢ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	西野直幸・藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	サーバーの役割、基本概要を理解し、構築方法を学ぶ。 またLinuxの操作方法、コマンドを理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				サーバーの概要、基本機能を説明できる。	
		○				Linuxコマンドを理解し、操作することができる	
		○				サーバーを構築し、アプリケーションの運用ができる	
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかるLinux Webサーバー 超入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サーバー概要説明・演習環境構築				当該教科書を事前に確認しておくこと	
	2	Linuxコマンド演習①				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	3	Linuxコマンド演習②				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	4	Webサーバー概要説明・構築				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	5	Webサーバー構築・設定				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	6	SSH設定				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	7	Webサーバープログラム実行・公開①				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	8	Webサーバープログラム実行・公開②				前回授業にて完了できなかった作業を、完了させておく	
	9	クラウドサーバー構築①					
	10	クラウドサーバー構築②					
	11	クラウドサーバー構築③					
	12	クラウドサーバー構築④					
	13	クラウドサーバー構築⑤					
	14	まとめ					
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業内で小テストを実施する。(3)授業の授業態度。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○	○				30%
	授業態度				◎		10%
履修上の注意	パソコン持参のこと。出席回数を授業態度の評価に加味する。						

科目名	プロジェクトワークスキル						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	松嶋貴志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	<p>現状、プロジェクト運営の失敗によるITシステム障害の発生や巨大な損失が新聞などで頻繁に報道されている。このため、ITシステム構築の要となるプロジェクトマネジメント力の向上がますます求められている。</p> <p>本科目ではプロジェクトマネジメント力向上のため、国際標準をベースに現場で必要な実践的なマネジメントの基礎知識、技法を習得することを目指す。</p>						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					プロジェクトマネジメントに関する基礎用語およびプロジェクトの流れが説明できる	
		○				ネットワーク図、ガントチャートなどの技法を活用し、プロジェクトのスケジュールを作成できる	
		○		○		実践的なシステム開発において、プロジェクトメンバーとしての心構えを持って行動できる	
テキスト・教材 参考図書	PMプロジェクトマネジメント(日本能率協会マネジメントセンター)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章 プロジェクトマネジメント PMBOKとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	Step1 プロジェクトの発足 Step2 プロジェクト目標				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	Step3 ワークパッケージ(WBS1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	Step4 役割分担と所要時間見積もり(WBS2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	Step5 スケジュール作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	Step5 ネットワーク図とクリティカルパス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	Step5 スケジュール(ネットワーク図、ガントチャート)作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	Step5 スケジュール(ネットワーク図、ガントチャート)作成					
	9	確認テスト1				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	10	Step6 予算、その他計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	Step7 リスクに備える、Step8 ベースライン設定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	Step9 実行とコントロール、Step10 プロジェクト終了				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	確認テスト2				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
14	まとめ						
評価方法	(1)確認テストを2回実施する。(2)授業態度の注意が多い学生に対し減点評価をおこなう。 (3)レポート提出状況を評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(筆記、2回)	◎	◎				80%
	授業態度				◎		10%
	レポート提出				◎		10%
履修上の注意	課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。 また出席回数を授業態度の評価に加味する。						

科目名	Webアプリケーション開発演習						
科目名(英)							
単位数	18単位	時間数	280時間	担当者	西野直幸・藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	ITエンジニアとして開発業務に従事		
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	4, 5人のチームで作業を行い、設計、開発、テストの一連の流れを体験する。その中で、スケジュール管理、仕事の割り振り方、チーム開発の難しさ、完成させることの達成感を習得する。 後期の卒業研究につながる内容となる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			スケジュール管理ツールを使って、プロジェクトのスケジュール管理ができる。		
	○	○			ソース管理ツールを使って、ソースの共有、バージョン管理ができる。		
		○			チームで開発を行い、開発物を完成させることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	チーム発表・イントロダクション					
	2-3	企画書作成			レビューに向けチームで企画書を作成しておく		
	4-5	企画書レビュー					
	6	スケジュール発表・GitHub講習					
	7-8	企画書修正・再レビュー			レビュー結果を受けチームで企画書を修正しておく		
	9-18	設計作業・個人面談			レビューに向けて設計書を作成しておく		
	19-20	設計レビュー					
	21-25	設計修正作業			レビューを受けて設計書を修正しておく		
	26	設計レビュー2					
	27-31	開発作業・進捗レビュー・個人面談			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	32-36	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	37-41	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	42-46	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	47-51	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	52-56	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	57-61	開発作業・進捗レビュー			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	62-66	開発作業・進捗レビュー・個人面談			進捗レビューにむけてメンバーの進捗管理をしておく		
	67-68	開発作業・進捗レビュー			成果発表会に向けて、開発を終わらせておく		
69-70	成果発表会						
評価方法	(1)開発機能の難易度と完成度 (2)授業の授業態度(3)面談での意欲・役割の確認 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	開発機能の難易度と完成度	○	◎				50%
	授業態度				◎		20%
	面談での意欲・役割の確認		○		◎		30%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。また出席回数を授業態度の評価に加味する。						

科目名	卒業制作A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	西野直幸・藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	卒業研究の企画立案、企画書作成、企画プレゼンテーションを行う。作成した企画書を基に、後期の卒業研究Bにてシステム開発を行う。 企業連携授業として実施し、企業から講師を招いての講義や演習を行う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				システム企画の手順と発想手法を活用した発想グループワークができる。	
		○				システム企画に含まれる技術要素の調査を行い、実現可能性を検討することができる。	
		○				システム企画書を作成することができる。	
				○		システム企画のプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	卒業研究について概要説明 テーマ発表					
	3-4	ウォーミングアップワーク					
	5-6	企業様による講義				講義レポートをまとめ、提出すること	
	7-8	企画書作成					
	9-10	企画書作成				企画書を作成し、レビューを受ける準備を行うこと	
	11-12	中間レビュー1(教員によるレビュー)					
	13-14	企画書修正				中間レビュー1の指摘を反映し、企画書を修正すること	
	15-16	中間レビュー2(企業様によるレビュー)				レビューのレポートをまとめ、提出すること	
	17-18	企画書修正					
	19-20	企画書修正				中間レビュー2の指摘を反映し、企画書を修正すること	
	21-22	企画プレゼンテーション準備					
	23-24	企画プレゼンテーション準備				企画プレゼンテーションの準備をすること	
	25-26	企画プレゼンテーション(企業様評価)					
	27-28	企画書修正、提出					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		◎				20%
	発表・作品		◎		○		60%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。また出席回数を授業態度の評価に加味する。再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	徳島 欽子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	社会に出て必要となるのが、自分の意見を自分の言葉で表現することである。ビジネスシーンでは、周囲の状況を的確に判断し、現状に基づいた建設的な意見が求められる。自らの考え・提案等を好印象を与えながら、聞き手に賛同を得る表現力を実践トレーニングを行い習得する。卒業研究の最終プレゼンをこの授業で行い、成果に繋げる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		正しい日本語・敬語を学び、聴衆の前に話し、伝えることができる。	
				○		グループワークで、自分の意見を積極的に発言し討議ができる。	
		○		○		プレゼン時の立ち居振る舞いを整えることができる。	
				○		卒業研究プレゼン時に、堂々としたプレゼンができる。	
テキスト・教材 参考図書	演習プリント(オリジナル)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・自己紹介				自己紹介を準備しておくこと	
	2	話し方				敬語の小試験の勉強をしておくこと	
	3	伝え方・聴き方					
	4	プレゼンテーションで気をつけること				敬語の小試験の勉強をしておくこと	
	5	グループディスカッション・自分の意見を主張する					
	6	論理的に発表する練習・フィードバックの仕方					
	7	ディベート					
	8	プレゼンテーション演習(グループワーク)シナリオ・資料作成					
	9	作成した資料をプレゼン(発表)する				各グループで発表できるよう資料を作成しておくこと	
	10	プレゼンテーション演習(グループワーク)シナリオ・資料作成					
	11	作成した資料をプレゼン(発表)する				各グループで発表できるよう資料を作成しておくこと	
	12	卒業研究プレゼンテーション; 事前準備・リハーサル					
	13	卒業研究プレゼンテーション: 本番					
	14	卒業研究プレゼンテーション: フィードバック・まとめ					
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)授業のなかでプレゼンを数回実施する。(3)出席回数を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○				20%
	発表・作品		◎		◎		60%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席回数を授業態度の評価に加味する。再試験は実施しない。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	西野直幸・藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	IT業界で仕事が行えるように、IT業界の構造や仕組み、新しい流れを詳しく知る						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				IT業界の特徴を説明できる	
				○		IT業界で働く心構えができる	
テキスト・教材 参考図書	世界一わかりやすいIT業界のしくみとながれ(ソシム)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IT業界の基礎知識【IT業界の基礎知識】					
	2	IT業界のサービスと顧客【IT業界のサービス】					
	3	IT業界のサービスと顧客【IT業界の顧客】					
	4	IT業界のサービスと顧客【IT業界の関係事業者】				「IT業界のサービスと顧客」の講義内容についてレポートを作成すること	
	5	IT事業者のしくみ【IT事業者の組織と部門】					
	6	IT事業者のしくみ【IT事業者の売上と利益】					
	7	IT事業者のしくみ【IT事業者の職種とキャリア】				「IT事業者のしくみ」の講義内容についてレポートを作成すること	
	8	システムの提案と要件定義【システムの提案】					
	9	システムの提案と要件定義【システムの見積り】					
	10	システムの提案と要件定義【システムの要件定義】				「システムの提案と要件定義」の講義内容についてレポートを作成すること	
	11	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい事業】					
	12	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい競合】					
	13	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい問題】				「IT業界の新しいながれ」の講義内容についてレポートを作成すること	
	14	IT業界のこれから【IT業界のこれから】					
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎				60%
	授業態度				◎		20%
	活動状況報告				◎		20%
履修上の注意	課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。 また出席回数を授業態度の評価に加味する。再試験は実施しない。						

科目名	プログラミング演習Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	Pythonの基礎的な文法を学び、ソースコードをもとにシステムの脆弱性について実例を確認しながら理解する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				セキュリティ演習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				インターネットの主要な攻撃手法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	つくりながら学ぶ！ Pythonセキュリティプログラミング マイナビ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～3	Pythonチュートリアル			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	4～6	Pythonチュートリアル			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	7～9	ネットワークセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	10～12	ネットワークセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	13～15	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	16～18	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	19～21	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	22～24	暗号			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	25～27	暗号			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	28～30	ファジング			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	31～33	ファジング			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	34～36	無線技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	37～39	無線技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	40～42	仮想化技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
43～45	仮想化技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度は意欲として出席状況も鑑みる。						

科目名	卒業研究A					
科目名(英)						
単位数	18単位	時間数	280時間	担当者	久家政人	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	ITエンジニアとして開発業務に従事	
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年					
授業概要	在学中に学んだ知識、技術を生かし、新たなITソリューションの開発および技術研究を行う。社会問題の解決や、最新技術の可能性を探求し、成果物としてシステムを構築する。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				システム開発における「企画」「設計」「開発」「テスト」「検証」ができる
	○					グループでの開発に必要な情報共有をスムーズに行うことができる
		○				技術的課題に挑み、調査、検証を繰り返し解決することができる
				○		グループ内での役割を全うし、さらに他のメンバーへのサポートもできる
テキスト・教材 参考図書	個人開発のための Webサービス公開マニュアル 秀和システム AWSでつくる AIプログラミング入門 秀和システム					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1～3	チーム編成、研究テーマ検討①			最新技術の情報収集および、社会の課題を調査	
	4～6	研究テーマ検討②				
	7～9	研究テーマ検討③				
	10～12	研究テーマ検討④				
	13～15	研究テーマ検討⑤				
	16～18	企画書作成①				
	19～21	企画書作成②				
	22～24	企画書作成③、企画書レビュー			企画書まとめ作業、および企画書レビュー準備	
	25～27	企画書レビュー、企画書修正				
	28～30	企画書再レビュー				
	31～33	基本設計①				
	34～36	基本設計②				
	37～39	基本設計③			基本設計レビュー準備 利用技術についての資料収集等	
	40～42	基本設計レビュー、基本設計書修正				
	43～45	詳細設計①				
	46～48	詳細設計②				
	49～51	詳細設計③				
	52～54	詳細設計④				
	55～57	詳細設計⑤				
	58～60	詳細設計⑥				
	61～63	詳細設計⑦				
	64～66	詳細設計⑧				
67～69	詳細設計⑨			詳細設計レビュー準備		
70～72	詳細設計⑩、詳細設計レビュー					
73～75	開発①					
76～78	開発②					

	79～81	開発③					
	82～84	開発④					
	85～87	開発⑤					
	88～90	開発⑥					
	91～93	開発⑦					
	94～96	開発⑧					
	97～99	開発⑨					
	100～102	開発⑩					
	103～105	開発⑪					
	106～108	開発⑫					
	109～111	開発⑬					
	112～114	開発⑭					
	115～117	開発⑮					
	118～120	開発⑯、検証①					
	121～123	開発⑰、検証②					
	124～126	開発⑱、検証③					
	127～129	開発⑲、検証④					
	130～132	開発⑳、検証⑤					
	133～135	開発㉑、検証⑥					
	136～138	開発㉒、検証⑦					
	139～140	開発㉓、検証⑧、最終プレゼン	プレゼン資料準備、練習を行う事				
評価方法	(1)レビューを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○		◎		60%
	成果物提出	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。提出物については、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度は意欲として出席状況も鑑みる。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	内定獲得に向けて希望企業に合格するよう、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策など指導を行う就職に備えてIT業界の未来予測を把握する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自己分析を行い、自らの強みをPRすることができる	
	○					面接において、志望動機、自己PRを話すことができる	
	○					企業分析を行い、企業の強みや、将来性を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	ITロードマップ 2020年版 東洋経済新報社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応①			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	2	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応②			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	3	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応③			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	4	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応④			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	5	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑤			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	6	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑥			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	7	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑦			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	8	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑧			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	9	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑨			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	10	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑩			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	11	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑪			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	12	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑫			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	13	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑬			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	14	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑭			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
15							
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート				○		30%
	出席状況				○		30%
	授業態度				○		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ						
科目名(英)	Business CommunicationⅢ						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的の裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる ・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く 						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書になる	
	○					論理的に物事を考えることができる	
	○					伝わるビジネスメールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書	技術者のためのテクニカルライティング入門講座(株式会社翔泳社 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					
	9	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取り扱説明書					
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第6章 実践編 提案書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						